

(研究論文)

附属学校との連携に関する一考察

——保護者会における音楽レクリエーションの実践事例から——

西田 治 (初等教育講座)

はじめに

本稿で検討する問いは、大学教員が附属学校といかに連携を図ることが求められているのか、そして、いかに連携していける可能性があるのかについてである。その一端を明らかにすべく、前者の問いについては文部科学省の近年の動向から考察を、後者の問いについては附属学校での実践事例とそのアンケート結果をもとに考察を行う。

1. 求められる附属学校との連携とは

国立大学法人評価委員会により取りまとめられた「国立大学法人の組織及び業務全般の見直しに関する視点」(平成 21 年 1 月 27 日)において、附属学校の存在意義を明確にしていく必要が提案された。それを受けて、有識者によって検討された検討結果を取りまとめたのが、「国立大学附属学校の新たな活用方策等について」(平成 21 年 4 月 2 日)である。ここでは附属学校の現状と課題として、以下の点が指摘されている。

(1) 附属学校の組織運営上の課題

- ・学長のリーダーシップによるマネジメント機能が不十分。
- ・大学・学部教員の附属学校の教育活動への関わりが希薄。
- ・地域の教育界の意向が附属学校の教育研究活動に十分に反映されていない。

(2) 附属学校の業務運営上の課題

- ・大学・学部における教育に関する研究への協力については、大学・学部の研究方針に基づくものではなく、附属学校が独自の立場で取り組んでいるものがほとんどである。
- ・教育実習においても、附属学校に任せきりになり、大学・学部の側が責任を持って実施する体制になっていない。

これをうけて同文書では、改善方策として、「附属学校の存在意義の明確化」「学内マネジメント体制の確立」「業務運営上の改善」を挙げている。この中の「附属

学校の存在意義の明確化」という点では、「大学・学部の持つ人的資源を活用しつつ、公立学校で実施するものとは異なる先導的・実験的な取り組みを中長期的視点から実施する」ことが求められている。

本稿で紹介する実践事例は、学部教員によっておこなわれた附属学校保護者会での音楽レクリエーションである。「大学・学部の持つ人的資源を活用しつつ、公立学校で実施するものとは異なる先導的・実験的な取り組みの一例」として取り上げ検討していく。

2. 実践事例の紹介

(1) 概要

参加者：附属小学校第6学年 児童 109名、保護者 108名

附属小学校教員 4名、教育学部学生スタッフ 12名

ファシリテーター：西田治（長崎大学教育学部教員）

日時：2013年10月22日（火） 14:00-15:30（90分間）

ねらい：親子で音楽を楽しむ

筆者がこの学年の保護者会で音楽レクリエーションするのは、2年ぶり2回目となる。前回の活動内容については西田治（2012a）を参照。今回は、レクリエーションテーマを「サムと親子で音あそび！」と題して、以下に紹介するような即興性のある音あそびを展開した。

(2) 内容

内容については、保護者の方との事前の打ち合わせで、「子どもが6年生となりスキンシップもだいぶ減った」という話を受けて、自然な形でスキンシップが行える音楽活動を含めてデザインした。また、活動の流れとしては、体の動きを伴う動的な音楽活動から静かに目を閉じて音を聞くといった静的な音楽活動に移行し、最終的にはリラックス感、安心感を得られるようにデザインしている。

また、活動形態は、全体を9つのグループに分けて実施した。グループ分けは、クラスの枠を取り払い、基本的には1グループ親子11組である。活動の概要と時間配分は、以下のとおりである。



1) アイスブレイク (35分)

・手拍子回し

手拍子を回す音あそび。ゲームとしてできるだけ早く手拍子を回すことでグループ間の競争を楽しんだ。逆回し、足踏み回し、目をつぶっての手拍子回しなどバリエーションを持たせた。



・エッグシェイカー回し

右の写真のようにエッグシェイカーをパスしていく音あそびである。シェイカーを落としても拾わずに活動を進めることを約束として実施し、ここから「失敗(=シェイカーを落とす)もみんなで協力すれば何とかなる。今日は失敗も楽しもう」という共通理解を引き出した。



・ボディパーカッション

2パートに分かれて即興的にアンサンブルをつくる活動。全体をいくつかに分け、交互に聴き合う活動も行った。

2) ドレミパイプ (15分)

ドレミパイプとは、プラスチック製のパイプであり、長さによりドレミの音程が付けられているものである。また音程ごとに色分けされており、見た目がカラフルで楽しいのもこの楽器の特徴である。今回は、ドミソドの4音のみを使用した。音程が加わりハーモニーがつくことで一気に活動に音楽的な色彩感が増した。適当に鳴らしてみたり、全員でタイミングを合わせて叩いたりすることで即興的な音あそびを楽しんだ後、色ごとに示されたリズムをたたき、アンサンブル曲を演奏した。この時も楽譜は使わずに、



見て聞いて覚えて真似をすることを重視した。演奏リズムは指定されたものであるが、強弱をつけたり、互いの音を聴き合って演奏を終えるなど、予定調和ではなくその場で共に作り上げることを重視した。また、親子で同じ色のパイプを持つことで、親子で同じリズムを奏でられるように配慮した。

3) 背中合わせでリラックス …サウンド・エデュケーション (10分)

親子で背中合わせで目を閉じ、サウンドスケープを聴く活動である。「1分間目を閉じて、聞こえてくる音全部を聞いてみよう」という活動が基本である。車の走る音、遠くで聞こえる笑い声、自分の呼吸、背中から伝わってくる鼓動など、回数を重ねるごとに聞き取れる音が増えていった。また、その後は、「一番遠くから聞こえる音は?」「近くで聞こえる音は?」など課題を示すことで飽きずに同じ活動を繰り返し、音を聞き深める活動を行った。また、聴取後は毎回、どんな音が聞こえたかを言葉でシェアしあう時間も取るように配慮した。最後は、学生スタッフが即興的にトーンチャイムやフィンガーシンバルを演奏する幻想的な音空間の聴取を行って終了した。



休憩 (5分)

4) 合唱 (25分)

筆者が2年前に今の6年生のために書いた合唱曲《いっしょに》を合唱した。体育館中央に児童だけが集い歌ったり、歌詞の内容に沿って、親子で握手をしたり手をつないだりしながらの合唱となり、心温まる光景であった。また、



途中では、保護者会代表の方々と学年主任の教諭、筆者の4人での合唱奏も披露し大変好評を得た。



5) ダンス

親子ペアでのダンスを予定していたが、アイスブレイクに時間をかけてしまったため、今回は割愛した。

(3) アンケート調査の結果

今回は、事後に保護者、児童、附属小学校教諭にアンケート調査を行った。以下、その調査結果について紹介する。

【回収率】

附属小学校教諭（4名中4名） 100%

保護者（108名中70名） 64.8%

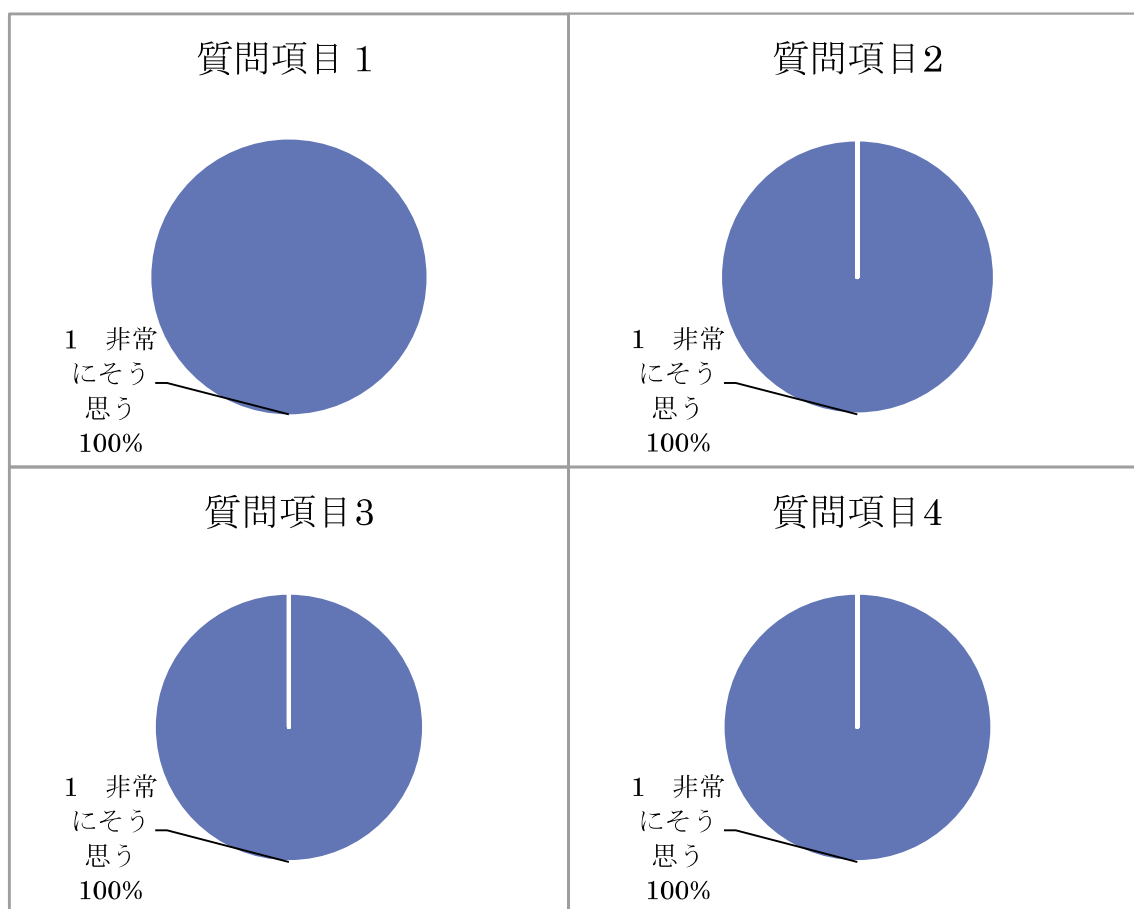
児童（109名中109名） 100%

以下、対象者別に調査結果を掲載する。

対象：附属小学校教諭

No	質問項目	1 非常に思う	2 そう思う	3 どちらとも言えない	4 そう思わない	5 全く思わない
1	本日の内容は、育友会のレクリエーションとしてふさわしいものだった。	4名	0	0	0	0
2	親子の交流が感じられた。	4名	0	0	0	0
3	附属小学校の子どもたちにとって、大学教員の指導を直接受けられることは良いことだ。	4名	0	0	0	0
4	今後もこのような機会（大学教員が小学校で授業などを行う）はあったほうが良い。	4名	0	0	0	0

グラフ化すると次のようになる。

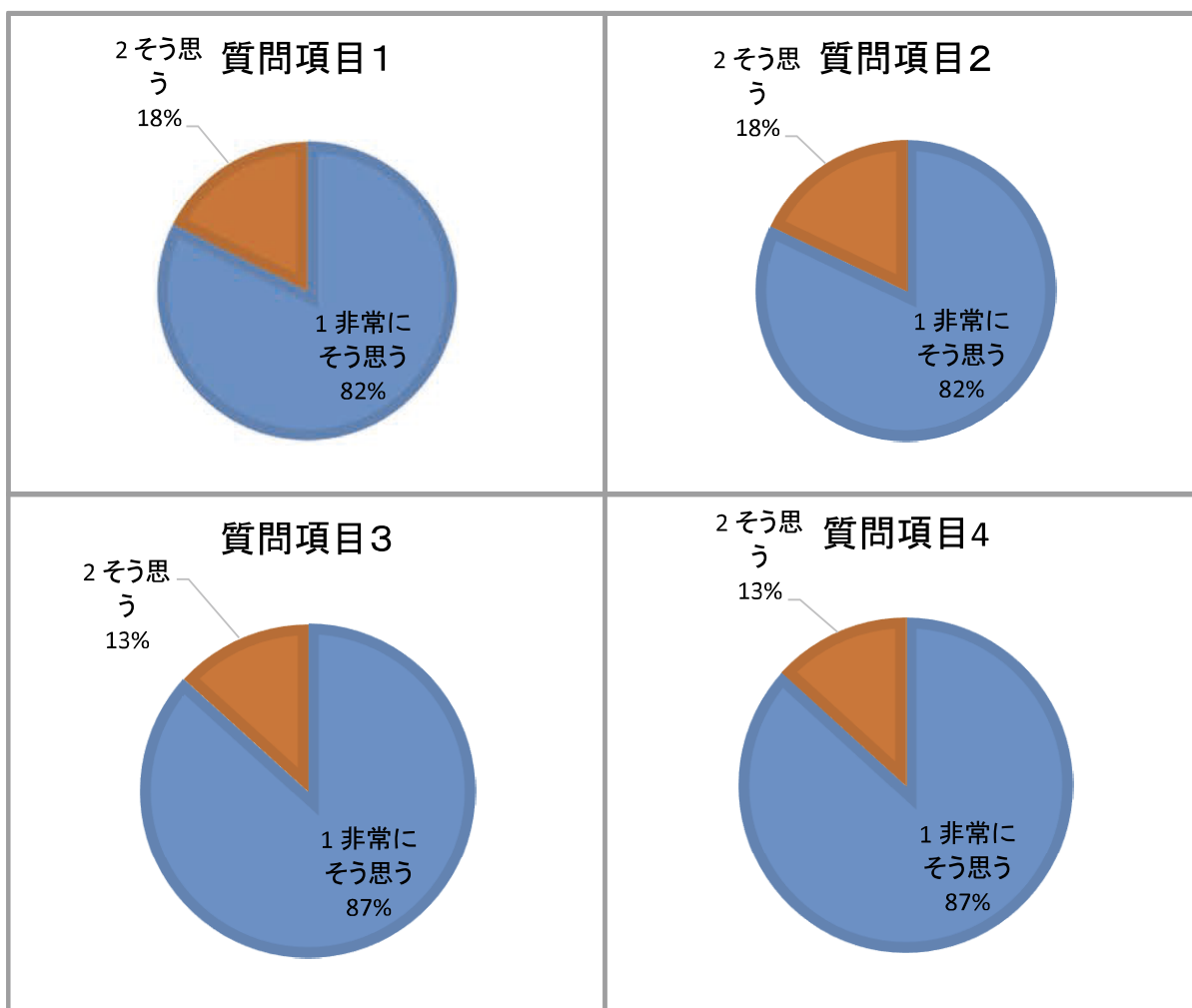


対象：保護者

No	質問項目	1 非常に思う	2 そう思う	3 どちらとも言えない	4 そう思わない	5 全く思わない
1	本日の内容は、育友会のレクリエーションとしてふさわしいものだった。	56名	12名	0	0	0
2	親子の交流が感じられた。	55名	12名	0	0	0
3	附属小学校の子どもたちにとって、大学教員の指導を直接受けられることは良いことだ。	59名	9名	0	0	0

4	今後もこのような機会（大学教員が小学校で授業などを行う）はあったほうが良い。	59名	9名	0	0	0
---	--	-----	----	---	---	---

グラフ化すると次のようになる。



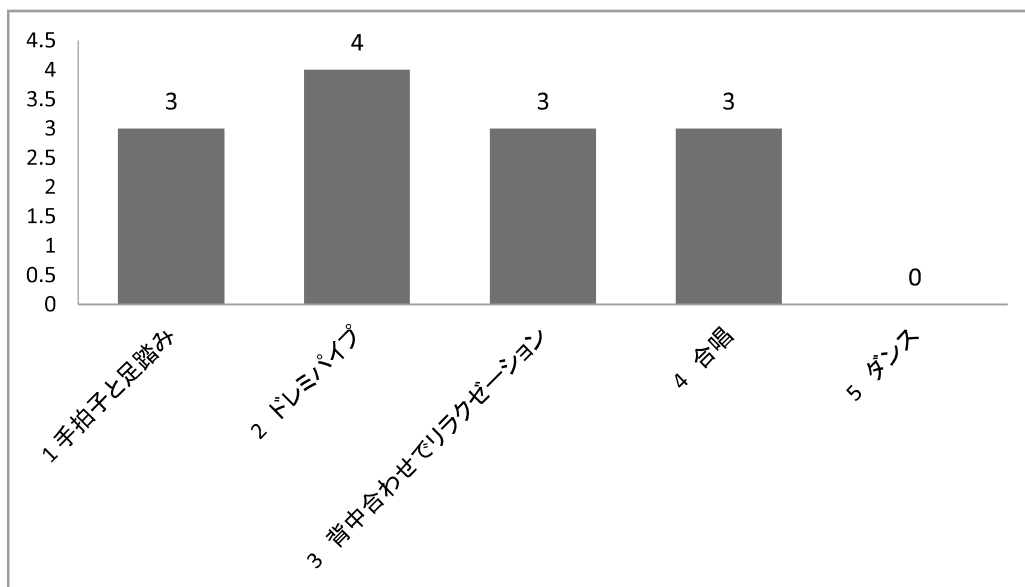
以上、附属小学校教諭、保護者への共通の質問項目1および2から、参加者にとってレクレーションの内容がふさわしいものであり、ねらいとしていた親子の交流を感じられるものであったことが明らかになった。また、質問項目3および4から附属学校での大学教員の指導とその機会が求められていることが明らかになった。

次の質問項目は、附属小学校教諭、保護者、児童の3者に同様の内容を調査したものである。問いは、以下のとおりである。

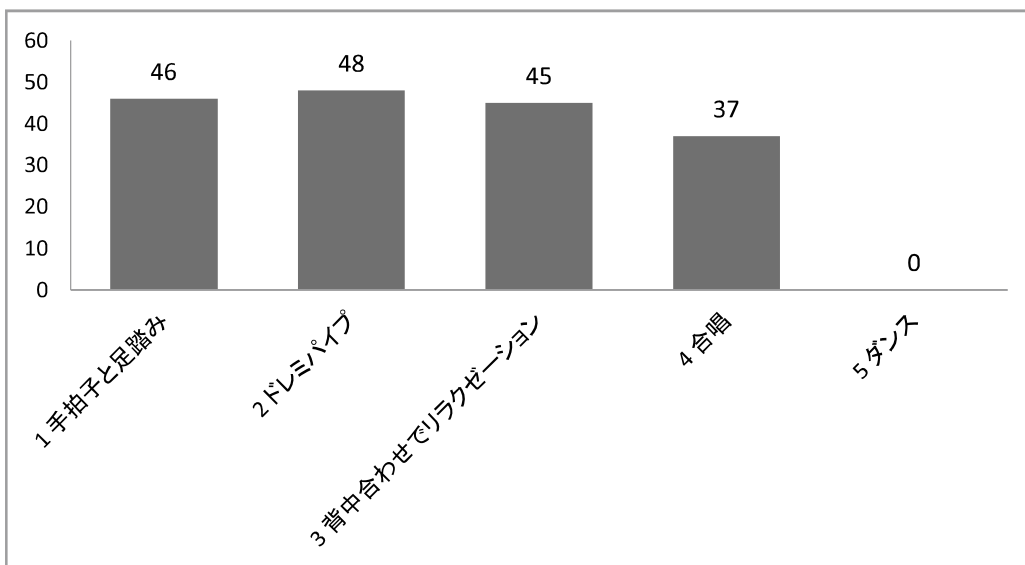
問：本日の活動の中で、特に良かった活動はどれでしたか。該当する選択肢に丸を付けて（複数回答可）、その理由も教えてください。

以下、対象者別にまとめたものを順次紹介する。棒グラフ上の数字は、人数を表す。

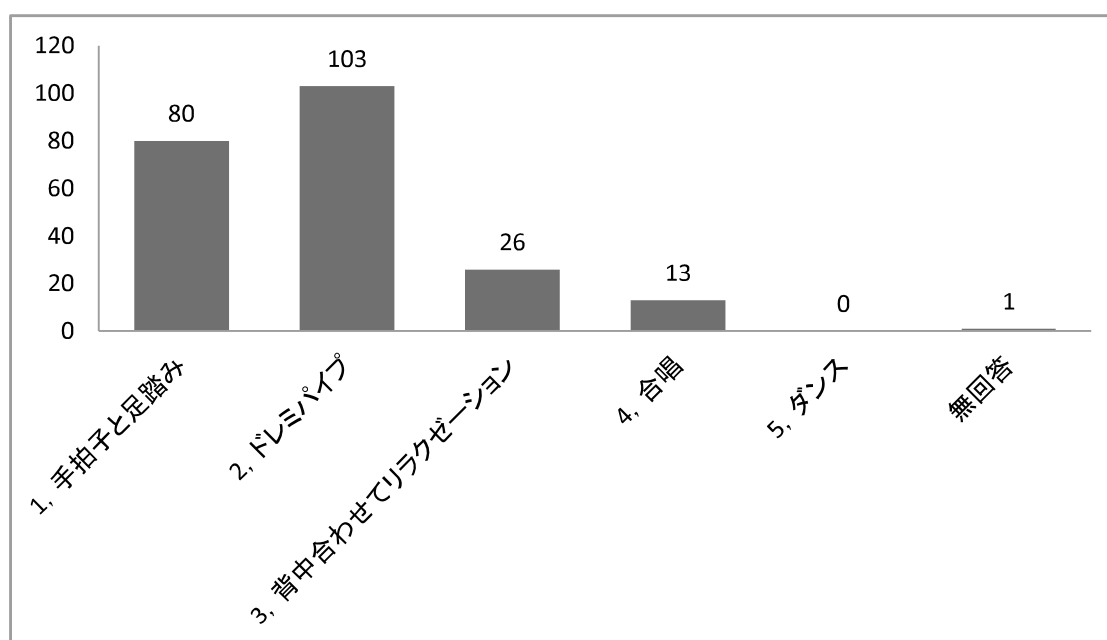
対象：附属小学校教諭



対象：保護者



対象：児童



活動内容は、5項目で調査を行っているが、実際は、「5. ダンス」は時間の関係上、割愛したので実施していない項目となる。

附属小学校教諭と保護者の回答では、4つの活動とも大差なく票を得ているのに対し、児童の回答では、「手拍子と足踏み」と「ドレミパイプ」が大きな票を集めている。

以下、保護者及び児童の選択理由を抜粋で紹介する。文中に出てくる「サム」は筆者のことである。

1. 手拍子と足踏みの活動が良かった理由

(保護者)

- ・子どもも大人も大きくなるにつれ、何か道具を用いて動く機会が多くなりがちですが、自分の体や感覚のみを頼りに動作することにより鋭い感覚で自分の今の様子を振り返ることができるように思います。1と3はそのように感じられる活動でした。
- ・道具を使わなくても体で表現できる音遊びで思っていたらできそうでよかった。
- ・友人や子どもと手をつなぐだけでもつながった感じがありました。チーム対抗でスピードを競うことで、一体感も味わうことができました。
- ・グループで交流ができたから。

(児童)

- ・手拍子と足ぶみを使った活動がリズムをかえることにより、音楽ができることに感動しました。

- ・1、2は音のずれが感じられたりして楽しく、また、他のリズムに連れられたいして難しくもあり、楽しかったです。これからも音やリズムの楽しさに母といっしょにふれていけたらいいと思いました。
- ・手拍子と足踏みだけで、あんなに遊べるなんて、びっくりしました。
- ・手拍子と足踏みを使った活動はチームで協力してトップ争いみたいなのをして、そのうえに目をつぶってリレーをすると、いっそうスリルがあって楽しかった。
- ・楽器を使わなくても、手拍子や足踏みでリズムをとり、音楽になっていくところが楽しかったです。
- ・楽器がなくても、自分の体で出せる音をつかってたくさんの音楽をつくることができるとすごいいいと思いました。同じ班のみんなともさらに仲良くなることができました。
- ・手拍子と足踏みだけで、音楽をつくることができることにびっくりしました。そして、卵のマラカスでは、いつ回ってくるかわからなくてとても楽しかったです。友達とのチームワークが良くなったと思います。

2. ドレミパイプの活動が良かった理由

(保護者)

- ・打ち方によっていろんな音を楽しめたから。
- ・ド・ミ・ソの音だけでもリズムやタイミングでとてもきれいな音が出ていました。全体の一体感もあってよかったと思います。
- ・ドレミパイプは簡単に音遊びができて楽しかった。

(児童)

- ・ぼくは、あまり音楽の楽器が好きではなかったけどこのドレミパイプは、おもしろいと好きになりました。なぜならこのドレミパイプはすぐに出来るようになるし、リズムにのればかんたんに使いこなせるからです。
- ・ドレミパイプでは、音と音とのかきなりが、とてもふしぎでおもしろかったです。
- ・2(ドレミパイプ)の活動ではちがう音につられて少しむずかしかった。しかし、じょじょになれてきて最終的にはうまくできたと思う。みんなで一せいに音をけすサイレンスがきまったときは気持ちよかった。
- ・ドレミパイプを使って、ちがうリズムでたたくことで、きれいな音が出ていてすごかった。音量までつけるとおもしろかった。
- ・普段は音やリズムであそぶことがあまりなかったのでとても楽しかった。とくにドレミパイプをつかって音をかきねたのがおもしろかった。
- ・ドレミパイプでは、親と協力してリズムをとれたことがよかったです。
- ・ドレミパイプで、いろんなリズムをとったりするのが楽しかった！またドレミパイプをたたくとトンという音ではなくド♪とかミ♪とかヤソ♪と音が出たのでおもしろかった。

- ・ドレミパイプではC E G C（ドミソド）の音の重なりで楽しい音楽ができてすごくおもしろかったです。
- ・いつもは体験できないドレミパイプがとても楽しく印象に残りました。だが途中で音程が分からなくなったけれどドレミの全部がたたかれるとき綺麗な音色になってとても美しかったです。いつも味わえないとても楽しい時間となりました。
- ・2、のドレミパイプ’は親子二人で力いっぱいパイプをたたいて音を出すことが出来ました。まるでドレミパイプの音が歌っているように聞こえました。

3. 背中合わせでリラクゼーションの活動が良かった理由

(保護者)

- ・普段、照れくさくて体をくっつけることがありませんので、良い機会となりました。
- ・あわただしい日常では”静”という状況はなかなかできないのでリラックスできてよかった。
- ・いくつになっても親と子のふれあいは大切で、楽しいひとときを過ごせたいと思います。特に背中合わせのリラクゼーションは、なかなか出来ないものでハグと違った意味で良かったと思います。
- ・背中合わせをすることが初めてで、子供の体温を感じることができて、体も心も暖かくなりました。
- ・リラクゼーションは心を落ち着かせられて、心地よい時間でした。
- ・背中合わせで黙って音を探すという時間の楽しみ方を知ることができて良かったです。
- ・6年生にもなると親子のスキンシップの機会が減っていた中で、久しぶりに親子で背中を合わせ、お互いの存在を改めて確かめ合うことができ、また大きくなった背中に成長を感じました。
- ・なかなかスキンシップとれる年でもなくなり背中合わせでもじんわり子ども体温を感じられて、また目を閉じて静かな状況も良かったです。

(児童)

- ・3（背中合わせでリラクゼーション）では、親とあんまりすることがなかったので、いい経験になりました。
- ・背中合わせでリラクゼーションでは、母と背中を合わせるという機会がなかったのだから家族と背中を合わせるのはいいなと思いました。
- ・3の背中合わせでリラクゼーションはすごく静かな状態でふだんなら聞くことがない自然の音を聞くことができて、とても良かったです。
- ・3、の背中合わせでリラクゼーションは、ふだん私達が聞こえない様な音が聞こえてとても感動しました。
- ・楽器がなくても、まわりにはたくさん音があるということが分かりました。

楽しかったです、ありがとうございました！

- ・背中合わせでリラクゼーションではふだんでは聞こえない音が聞こえたのでごくおもしろかったです。
- ・3番のものは、久しぶりにリラックスもできたので、家でも実践したいと思います。

4. 合唱が良かった理由

(保護者)

- ・親子で一緒に歌えて、とても幸せでした。
- ・子供の歌声がとてもきれいで本当に感動しました。サム先生の手動きで皆の声が出ていたところにおどろきました。指導で上手になるのが目に見えました。
- ・4年生の時とは少し違う成長を感じられる歌声を聞いてよかったです。(役員の方と先生の合唱奏)に感動した。
- ・どれも楽しく、皆で一つになれた気がしました。合唱は今回もまた心にジーンとしました。
- ・合唱については、子どもたちと保護者とで歌を歌うこともないことなので、歌詞のあたたかさも相まって心を一つに感動を共有できた時間となりました。

(児童)

- ・合唱ではあまり母としないあくしゅをして少しはずかしかったけど、これもいいなと思いました。
- ・4の合唱は、サム先生がつくって下さった曲に感謝の気持ちが入っていて、直接は伝えられない気持ちを伝えることができよかったです。
- ・サムと一緒に「いっしょに」をうたったことが楽しかったです。これからも「いっしょに」をたいせつな宝物として歌っていきたいと思います。本当にありがとうございました。

次に自由記述の感想を抜粋で紹介する。

○附属小学校教諭

- ・どの活動も人との触れ合いや一体感を感じることができ、とても素晴らしい取り組みでした。一昨年西田先生に作っていただいた「いっしょに」をまた、みんなで歌うことができ、とてもうれしく思いました。一緒にいる友達や保護者のよさを全員が再認識したのではないかと思います。ありがとうございました。
- ・体を使ってリズムを刻むことで、子どもたち、保護者のみなさんが一体感を味わうことができたと思います。4年生の時と、6年生の時を比較しながら参観していました。4年生の時はギャングエイジらしく、勢いがあったのですが、6

年生になり、心も体もちよっぴり大人になったのか、しっとりとしていました。しかし、今日は以前より一体感を感じる内容だったので、みんなの心を一つにすることの気持ちよさを味わえました。本当にありがとうございました。

- どの活動も、親子で夢中になって取り組むことができるものでした。静かな時間を楽しんだり、みんなで心を一つにして音を出したり、とても楽しい活動が多かったです。
- 今回はとても楽しい活動に参加させていただきありがとうございました。A組の子どもにとってはみんなで円になって音楽を楽しむことができ、本当に有意義な活動でした。また、機会があれば今回のような楽しいレクリエーションをお願いしたいと思います。本当にありがとうございました。
- 全てが心が温まりました。ありがとうございました。

○保護者

- 西田先生の一言一句を聞き逃すまいと全員で真剣に向き合った“一時”でした。このような機会を再び経験させていただき、心より感謝しております。心に残る育友会となりました。
- 非常に楽しく参加させていただきました。成長と共に子供と体を動かす機会が減ってきておりましたので大変良い機会になりました。私が過去参加した育友会の行事の中でも最も楽しく参加することができました。
- 言葉がけひとつで、こんなにも子どもたちの気持ちがまとまったり大きくふくらんだりするものかと驚きの連続でした。西田先生ご紹介くださった「生きるって楽しいことなんだと子どもたちに見せてください」というお話は、少しずつ親離れ子離れしつつある小6の親子にとってぴったりの内容だったと感じます。
- 目を閉じ、耳を研ぎ澄まし、静けさの中から聞こえてくる音の中に身を委ねるといふ心地よさに驚きました。1時間半があつという間で、名残惜しかったです。中学生になっても、また親子でサムと音の世界を楽しめることを心から願います。本日はありがとうございました。
- クラスをまぜて班を作っていたので話をした事のないお母様や子供たちと接する事ができてとても良かったと思います。サム先生の授業は今回で2回めでしたが、前回以上に楽しめました。今年が最高学年なのでもうサム先生の授業を受ける事がなさそうなので少し残念に思います。
- 少し時間が長すぎるかもと思いました。
- リズム、音色、ヒーリング、無音・・・こんなに様々な角度から音を意識した事は初めてでした。そしてこんなに多くの音に囲まれて生活しているのかと改めて驚かされました。今回のレクリエーションを機に生活の中で様々な音を意識するようになり、それぞれの音やリズムが奏でる世界がとても新鮮です。

- ・こんなに身近に（同じ学内）こんなに素晴らしい先生がいらっしゃるのに、もっともっとこのような時間がとれるといいと思います。思春期をむかえ、気はずかしさや反抗がでてきている時期に音楽を通して親子でふれあえて、2年前とはまた違った時間となりました。楽しく、貴重な時間をありがとうございました。
- ・あっという間に時間がすぎ、とても楽しく娘と一緒に体を動かし、リズムを感じることができました。年々同じ思いを共有することが少なくなっているように感じていたので、久しぶりに子どもと向き合い、リラックスして楽しみました。ありがとうございました。
- ・時間が長かったので、歌は事前に子供たちが練習して時間を短縮しても良かったと思いました。サム先生の人柄が伝わった心のこもった授業でした。
- ・6年生という少しむずかしい年頃になってきた子供たちですが、目を輝かせて、ゲーム（手拍子）を競ったり、ドレミパイプに集中して取り組む姿は、とても楽しそうで一生懸命。よくまとまっていて、いい学年だな…と思いました。西田先生の指導も素晴らしく、特に合唱の声出しの指導前と後では声が全然違って、感動しました。楽しい時間を有難うございました。
- ・六年生に似合ったレクリエーションでした。子供とのスキンシップ、日頃顔を合わせる機会が少ない保護者とも、笑顔で過ごせる楽しい時間でした。雰囲気がとても良かった。
- ・とても楽しい時間でした。終わった後も子供達の歌が耳に残り、今も口にしようになります。音楽とはついCDにたよりがちですが色々な楽しみ方があるのだと思いました。ありがとうございました。
- ・音楽は音を楽しむものという事を改めて感じました。6年生と保護者、学生さんと200名近くの人数で手拍子だけでも揃うとすばらしかった。サムにのせられて楽しい時間を過ごせました。このような思い出深い親子レクリエーションを企画していただき、ありがとうございました。
- ・前回の時もそうでしたが、1時間半の中で、サムは「やめなさい」や「待て」といった子供達を制する言葉や否定的な言葉を一度も使わないことにとっても驚きました。「いいね」といった肯定的な言葉で、自然に流れを作って、一つの方向にまとめていく指導に、この様なやり方があるのか、と感心しました。とても心地良い時間を過ごせました。他の学年でもぜひ機会を作って頂けたらと思います。
- ・2年ぶりに西田先生のレクを受講できた事、とても良かったです。西田先生に作っていただいた曲をまた聴くことができた事もとても嬉しく思いました。皆が、1つになると小さな力が大きな力となり、本当に素晴らしかったです。これから先、子どもたちが今日の経験を生かしていくことができたらと思います。西田先生、これからもこの活動を続けられてください。ありがとうございました。

- ・2年前とは違う方法で楽しいレクリエーションをありがとうございました。6年生ともなると手をつなぐ事もできなくなり、体を寄せ合う事も少なく、こういう形でふれあえるのはとても貴重な時間だったと思います。役員様準備などお世話いただき感謝しております。どれもよく考えられていて、さまざまな方法で日常とは違う、親子、保護者同士のコミュニケーションをとることができたと思う。
- ・西田先生の活動は人と人とのつながりが希薄になりがちな現代において忘れがちな人と関わること、感じあうこと、認め合うことの素晴らしさを思い出させてくれます。手拍子、足踏みや合唱での一体感、親子で背中を合わせてのひととき、他では体験できないものです。今日の活動を通して、時には娘ともスキンシップをとり、(もうすぐ中学生なのでお互いに照れもありますが) ゆっくりした時間を共有しようという思いを新たにしました。西田先生、貴重な時間をありがとうございました。
- ・2年前の感動を再びいただき心より感謝申し上げます。ありがとうございます。前回に続き、今回も皆で作りに上げていく音楽の素晴らしさを改めて体験させていただきました。何よりもサム(あえて先生はつけずサム!)の情熱あふれるご指導が私たちを魔法にかけられたかのように音楽の夢のような世界へ導いてくださるのだと思います。サムのご指導を受けられましたことは私と子供にとって大きな宝物です!!これから小学生を卒業し少しずつ成長していく子供です。もしつらいことがあったとしたら今日の子どもも私も背中のあたたかさを思い出せばきっと何でも乗り越えられると思います。どうもありがとうございました。またいつか参加させていただきたいです!!どうぞこれからも多くの方をサムマジックにかけて **happy** にしてあげてください!!
- ・一度ならず二度も西田先生のご指導を受けることができ、親子で楽しい経験をすることができたことはとても幸せだと思います。準備等大変だったと思いますが、もっと他の学年の子どもたちも是非経験して欲しいと思います。とても素晴らしい時間を過ごすことができ、親子でとても満足しています。ありがとうございました。

実名が挙げられていたため割愛したが、保護者会役員と附属小学校教諭による合唱奏に感動したという声も非常に多くの方が書かれていたことを記しておきたい。

○児童

- ・音楽を体で楽しむ体験ができて楽しかったです。6年生になって、親とあまりむき合うことがなかったのでいい機会となりました。この育友会レクリエーションをとおして、あらためて、音楽のよさを感じ、音楽がますます好きになることができました。これからは、自然の音楽にも耳をむけて聴いてみたいと思

います。

- ・音楽の楽しさがよくわかりました。ドレミパイプだけでちゃんと音楽になっていたのすごいなと思いました。身のまわりにも、たくさんの音がひそんでいたのでびっくりしました。
- ・はじめは、足踏みなどを使って活動するのはむずかしかったけど、何度もやっているうちに、できるようになったのでうれしかったです。またドレミパイプもみんなと協力することができたし、合唱も、心を一つにできたと思います。もっと活動したかったです。先日はおいそがしい中、私たちのために附属小学校に来て下さりありがとうございました。また来てください！本当に楽しかったです！
- ・日々のくらしの中で音とふれ合う機会があまりないので、とても楽しく音とふれ合うことができました。1、の「手拍子と足踏みを使った活動」では、チームで協力するチームワークが生まれ、とても楽しめました。2、の「ドレミパイプ」では、1本1本リズムがちがうのに全部合わせてみると1つの音楽としてなり立っていたところがすごいと思いました。これから中学生になる中で、このような形で音とふれ合う機会は減ると思います。その中で今回のレクリエーションはとてもよい思い出になりました。サム先生、本当のありがとうございました。
- ・久しぶりにサムと会えてうれしかったです。ドレミパイプが一番楽しくてリズムがずれたりしたけど母のリズムに合わせてリズムがずれないようにもしました。背中合わせでリラクゼーションは普段聞いている周りの音に耳をすましてみるといろいろな音があることに気づきました。合唱は学年、保護者の方と歌って楽しかったです。本当にありがとうございました。
- ・ぼくは、サムとまた会えてうれしかったです。次は中学校に来てください。ぼくは、ドレミパイプが一番楽しかったです。パイプをたたくと音がでてくるからです。うまくたたけなくて、大きく音がでなかったけど、楽しかった。もう1つは手足を使った活動です。これはみんなとやるので、とても楽しかったです。
- ・また、サム先生と音遊びができてよかったです。先生が作ってくださった「いっしょに」心の中の宝物にしています！
- ・4年生のときにレクリエーションをして楽しかったのもまたこのようなことができて良かった。ドレミパイプはおもしろい音が出て楽しかった。親とはこんなことはふだんはしないから違った雰囲気を楽しめることができた。ありがとうございました。
- ・サム、2年前とちっとも変わらない姿で私たちに接して下さってありがとうございます。母といっしょに楽しむことができました。ドレミパイプで、ドとミとソの音のみの音楽がとてもすばらしくて本当にみんな一つだなぁと思いました。目をつぶって手を時計周りにギュッとしていくのも面白かったです。音楽

を今までにないような形で全身で感じることができました。ありがとうございました。

- ・ドレミパイプドレミパイプやボディーパーカッションなど普段はあまりやらないことを、おもいっきりできたのでとても楽しかったです。親子で音楽を楽しむことができたので、ほかにもいろいろなことをしてみたいと思いました。サムありがとうございました。
- ・今回もわざわざ来てくださってありがとうございます。先生といっしょにいた時間はわすれられません。ドレミパイプはおとの出し方がちがってすこし難しかったけど親とできたのがなによりもうれしかったです。
- ・普段あまりやらないけれど、意外にシンプルでやりやすく、とても楽しかったです。皆で競い合う時は、班の皆ともえました。それとは正反対に、静かに背を合わせて音を聴くとき、遠い音と近い音をきき分けることが難しかったです。なかなか長い間ゆっくり目を閉じて音をきくことが少なかったのでおもしろかったです。このような音楽とふれ合う時間をありがとうございました。
- ・僕はまた西田治先生とふれ合うことができてとてもうれしかったです。なかなか見ない楽器やなかなかしないことをして、身体を使うだけでこれだけ楽しめるのだなあと思いました。これでふれ合うのも最後かもしれませんが、四年生とそしてこの六年生での思い出をありがとうございました。
- ・一番楽しかったのはドレミパイプだけけど一番チームワークがためされたのは手拍子と足踏みを使った活動で、友達とも親とももっときずなが深められたと思いました。だから、楽しかったです。
- ・あまり母と音楽を楽しむことがないのでとても楽しかった。特に背中合わせでリラクゼーションは、とてもきれいな音色が聞けたので、気持ち良かった。また親子でやりたいです。
- ・なかなかふれ合うきかひのない、お母さんとふれ合うことができたので良かったです。

(4) アンケート調査のまとめ

以上の3者からの感想からも親子の交流が感じられる内容であったこと、既成の音楽概念にとらわれずに様々なアプローチで音楽づくりをする楽しさを実感してもらえたこと、音楽をきくのではなく、音の風景（サウンドスケープ）を聞くことを通して聴取対象の広がりを実感してもらえたことがうかがえる。また、大学教員による授業の提供は、附属学校教諭、保護者共に好ましく思っていることも明らかになった。

3. 考察

筆者はこれまで即興性を持った音あそびの重要性とそれを体験できる機会の必要性を感じ、様々な場で音あそびのワークショップを提供していった。その活動の一端については、西田治（2011a）、西田治（2011b）、西田治（2012b）で紹介している。また、こういった既成の音楽を再生するだけにとどまらない音楽活動の必要性については、文部科学省「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために～「話し合う・創る・表現する」ワークショップへの取組～審議経過報告のとりまとめについて」（平成 23 年 8 月 29 日）においても提唱されている。同報告書は、文部科学省がコミュニケーション教育推進協議会を設置し、子どもたちへのコミュニケーション能力の育成を図るための具体的な方策や普及のあり方について議論を行っているものの審議経過報告である。そこでは、コミュニケーション能力を育成する手法・方策に関して、以下のように述べられている（下線は筆者によるもの）。

歴史的な背景や目的はそれぞれの国で異なると思われるが、イギリスやフランス、アメリカ、韓国などでは、クリエイティブな活動をする実践家やアーティストが学校でワークショップ型の授業を行い、子どもたちの創造性やコミュニケーション能力等を育む機会を設けている事例が多く見られ、成果を上げている。日本国内においても、文部科学省の取組として、平成 22 年度は、全国 45 都道府県（190 自治体）、292 校の小学校・中学校・高等学校等が実践校として、「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験事業」を展開した。具体的には、NPO 法人や劇場等に所属する芸術家等を学校へ派遣し、その芸術家等と教師が連携して国語、社会、体育、音楽、総合的な学習の時間、特別活動などの授業に芸術表現体験活動を効果的に結び付けたワークショップ型の授業が実施された。実施分野は、演劇、ダンス・舞踊、音楽、伝統芸能、大衆芸能など多岐にわたる。この事業は、平成 23 年度も引き続き実施されており、実施希望校数の増加が認められる。

これらをふまえ、コミュニケーション能力を育成する効果的な手法・方策として以下の 3 点を挙げている（下線は筆者によるもの）。

- 実施に当たっては、
 - ・グループ単位(小集団)で協働して、正解のない課題に創造的・創作的に取り組む活動を中心とするワークショップ型の手法をとること
 - ・演劇的活動など表現手法を豊富に取り入れていること

- ・ワークショップの理論や手法を備えた芸術家等の外部講師が授業に参画することが大事である。
- 発表を目的化せず手段として位置付け、創作やグループでの話し合い等といった活動の過程を重視することが重要である。その際、ワークショップでは「導入過程」「展開過程」「ふりかえり過程」という要素をもったプログラムを意識的に組んでいく必要がある。
- これらの取組と言語活動を含めた各教科等における指導とを有機的に関連させながら実施していくことが必要である。

今回、筆者が実施した親子音楽あそびのワークショップは、単発のレクリエーションであったため深化させる過程が少なかったものの、正解のない課題に創造的・創作的に取り組む活動、発表を目的化せずに取り組んだ事例として、コミュニケーション教育推進協議会が意図している取組にも該当するものと考ええる。

今回のように大学教員が積極的に関与しワークショップを附属学校で展開していくことは、文科省の動向からも保護者や附属学校教諭、児童のアンケートからも求められていることは明らかである。しかし、ここで重要となるのは、先に紹介した報告書にもあるように「正解のない課題に創造的・創作的に取り組む活動を中心とするワークショップ型の手法」であると考ええる。音楽もただ「演奏をする／演奏を聴く」という二項対立に収まる活動だけではなく、よりクリエイティブなかかわりが必要とされているといえよう。

4. まとめ

大学教員がいかに附属学校とかかわるかについては、「国立大学附属学校の新たな活用方策等について」（平成 21 年 4 月 2 日）で示されている、「大学・学部の持つ人的資源を活用しつつ、公立学校で実施するものとは異なる先導的・実験的な取り組みを中長期的視点から実施する」という観点から、附属学校と連携して先導的・実験的な取り組みを実施することが求められているといえよう。

また、いかに連携していけるのかという問いの一つの答えとしては、「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために～「話し合う・創る・表現する」ワークショップへの取組～審議経過報告のとりまとめについて」（平成 23 年 8 月 29 日）で示されているクリエイティブな活動をする実践家を外部から招くのではなく、学部教員がそれぞれの専門性を生かしてその役割を果たしていく在り方を提案したい。この視点に立てば、デザイン、音楽、美術などを専門とする大学教員と附属学校との連携はより豊かになると考えるからである。

また、今回取り上げた事例のように通常の授業形態ではなく、保護者会の機会を活用することは、子ども、保護者、教員のつながりを深め合うきっかけとなり有効であるとも考える。

今後も大学教員として自らの専門分野の研鑽をつみながら、それらを還元すべく附属学校と積極的に連携を図り、実践的な研究を続けていきたい。

本研究は、「平成25年度学部長裁量経費による支援プロジェクト」の採択を受けて実施したものである。

参考文献一覧

「国立大学法人の組織及び業務全般の見直しに関する視点」（平成21年1月27日）

「国立大学附属学校の新たな活用方策等について」（平成21年4月2日）

「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために～「話し合う・創る・表現する」ワークショップへの取組～審議経過報告のとりまとめについて」（平成23年8月29日）

西田治（2011a）「サウンド・エデュケーションの目指すもの——世界の調律からの解説」日本音楽教育学会発行『音楽教育実践ジャーナル vol.9 no1』pp.110-119

西田治（2011b）「教育訪問システムの事例報告——平成22年度の取組みから——」『長崎大学教育学部教育実践総合センター紀要 第10号』pp.143-152

西田治（2012a）「附属小学校第4学年におけるドラムサークルの実践——附属小学校、保護者、大学の連携——」『長崎大学教育学部教育実践総合センター紀要 第11号』pp.247-257

西田治（2012b）「「音あそび」に関する実践研究——特別支援学級および保育園における実践から——」『長崎大学教育学部教育実践総合センター紀要 第11号』pp.175-193